

2月13日 経済学部 予想

【1】出題されやすい単元・分野・テーマ 10 ※優先順位順(本命～抑え)

① 南北アメリカ文明～大航海～植民地経済(世界交易) … 出題回数最多(6回・99点)

狙われ語句:銀流通関連／ポトシ銀山価格革命・商業革命・生活革命／エンコミエンダ制

② ウィーン体制～19世紀国民国家形成 … 出題5回(64点)

狙われ語句:ウィーン体制／七月革命／1848革命／イタリア統一／ドイツ統一

③ 帝国主義と植民地経済 … 出題6回(45点)

狙われ語句:ベルリン会議／植民地境界線／資源輸出構造

④ ヴェルサイユ体制～世界恐慌 … §21+§22 合計8回以上

狙われ語句:ブロック経済、失業率、金本位制崩壊

⑤ 戦後国際経済体制(冷戦経済) … 戦後史:冷戦7回

狙われ語句:ブレトン＝ウッズ、IMF、GATT、ドル危機

⑥ 明清～海禁～東アジア交易

狙われ語句:海禁、倭寇、鄭成功、銀流通

- ⑦ 近代アジアの植民地化(インド・東南アジア)
- ⑧ ヨーロッパ統合(EU)
- ⑨ 宗教改革と対抗宗教改革と宗教戦争(文化史×政治)
- ⑩ 商品史(砂糖・綿花・茶・コーヒーなどの歴史)

【2】問われやすい資料・グラフ(超重要)

- ① 商品価格・生産量 … 綿花、金、原油、穀物
- ② 貿易収支・為替レート(ドル円) … 1960～90年代
- ③ 移民・奴隷数
- ④ 工業生産指数
- ⑤ 失業率

【3】注意する年代群(これ覚えるだけで差)

- ◎1760～1815 産業革命+フランス革命
- ◎1815～1871 ウィーン体制 ～ 統一運動
- ◎1870～1914 ビスマルク外交からヴィルヘルム2世外交へ
- ◎1944～1990年代 戦後経済体制 & 冷戦の流れ

【4】最後に確認する地図(確度高)

- ① カリブ海・大西洋交易圏
- ② 東南アジア海域 …… マラッカ・マニラ
- ③ 欧州国境変化 …… ナポレオン戦争後
- ④ アフリカ分割
- ⑤ 東アジアにおける条約と港

2月14日 商学部 予想

【1】狙われそうなテーマ史

① 「文字・印刷・情報革命史」

楔形文字、漢字、木版&活字印刷、グーテンベルク、宗教改革、新聞・出版(コーヒーハウス・カフェ)

② 「貨幣・金融史」

中国貨幣&紙幣、ギリシア&ローマ&中世都市、銀本位&金本位制、国債制度と銀行、インフレ

③ 「交易ネットワーク史(海域世界)」

シルクロード、インド洋交易、アカプルコ貿易、三角貿易

④ 「都市と商業の発展史」

中世都市、ハンザ同盟、都市自治、ギルド、中国の社会経済史

【2】狙われそうな単元・分野 … 過去3年未出題

① 十字軍&中世都市、大航海時代&商業革命

② ローマ帝国とキリスト教

③ 宗教改革と対抗宗教改革(イエズス会など)

- ④ ウィーン体制～1848 革命
- ⑤ 帝国主義の商業ネットワーク(移民と運河と蒸気船)
- ⑥ イスラーム商業活動と文化史
- ⑦ 明清の商業発展と南海交易

【3】短文論述 模範解答(30～40 字型)

- ① なぜ活版印刷は宗教改革を促進したか

聖書や宗教論争文が大量印刷され、信仰が各地へ急速に広まったため。

- ② 金本位制の仕組み

通貨価値を一定量の金と結び付け、交換可能とした国際決済制度。

- ③ 三角貿易がヨーロッパ経済に与えた影響

奴隷労働によるプランテーション利益が資本蓄積を進め産業化を促した。

- ④ ギルドの役割

同業者組合として品質・価格・生産量を統制し都市経済を支えた。

⑤ ハンザ同盟とは何か

北欧・バルト海沿岸都市の商人連合で、遠隔地交易を保護・独占した。

⑥ イギリス産業革命の条件

植民地市場と海外貿易拡大が大量生産を支える需要を生んだ。

⑦ 絶対王政と重商主義の関係

国家が産業育成と貿易統制を進め、財政強化を図った政策思想。

⑧ 東インド会社の役割

国家の特許を受け、アジア貿易と植民地経営を担った特権会社。

⑨ 宋代の商業革命の特徴

紙幣流通や都市発展により市場経済が大きく拡大した。

⑩ イスラーム商人の交易拡大理由

共通宗教圏とアラビア語・金融制度が広域商業を支えたため。

2月15日 文学部 予想

【1】スライドで狙われそうな単元・分野(5個)

- ①17～18世紀ヨーロッパの政治思想・啓蒙とサロン文化
- ②科学革命～近代科学技術(学会・地動説・産業との接続)
- ③ルネサンス～宗教改革(印刷・翻訳・信仰・制度を束ねる)
- ④ギリシア～ローマ文化・キリスト教・中世文化(基礎文化の識別)
- ⑤中国の宗教・思想史(儒学の展開／官僚制とセット)

【2】他大学“文学部系”でテーマになっているもの(5個)

- ①近世ヨーロッパ総合(ルネサンス～宗教改革～絶対王政～大航海)
- ②市民革命・民主主義の系譜(英米仏露)
- ③アジアの宗教史(仏教・儒学・キリスト教など)
- ④英仏関係史(中世～EU 統合)
- ⑤“マリンロード／交易・移動”テーマ(～19世紀のヒトとモノ)

【3】今年狙われそうな文化史(他学部では出ている、文学部では出ていない)

- ①印刷・翻訳と宗教改革(活版印刷／聖書翻訳／万人司祭主義)
- ②17～19 世紀西洋絵画史(様式識別:バロック～ロココ～新古典～ロマン～写実)
- ③19 世紀の文学・学問(国民国家形成と結ぶ:ロマン主義→写実主義など)

【4】〈歴史総合〉が論述になる想定:日本史ポイント4つ

- ①殖産興業と輸出産業(生糸):官営模範工場・民間育成・世界市場との連動
- ②文明開化と都市文化:教育・出版・新聞雑誌・消費文化(“生活の変化”を書かせる)
- ③昭和恐慌～農村不況と輸出産業への打撃:養蚕・製糸の需要減と地域社会
- ④1920 年代の思想・文化:大衆社会・メディア・社会運動(論述で扱いやすい)

2月16日 法学部 予想

【1】小問で狙う「単元・分野」20(=他学部ネタを“難化して法学部化”)

1. アウクスブルクの和議:宗派容認の「政治決着」の意味(領邦教会制の限界)
2. カルヴァン派の教会組織(長老制・監督制との比較)
3. アルゼンチン・パンパ開発(輸出経済・移民・鉄道・冷蔵船)
4. パキスタン独立と分裂(印パ分離・東西パキスタン→バングラデシュ)
5. キャラコの特徴(綿工業・インド・産業革命の前提)
6. スペインが奴隷を直接調達できない理由(アシエント・他国商人・中継貿易)
7. キューバ独立運動と米介入(米西戦争・プラット修正条項)
8. 東清鉄道と南満鉄の関係(ロシア利権→日露戦争後の継承)
9. 光緒新政の内容(新軍・学制・立憲準備)
10. 戦後～1969年未の米ソ・中ソ関係
11. 中越対立とカンボジア内戦(中国・ソ連・ASEANを絡める)
12. プロイセン王国昇格が認められた背景(欧州国際秩序・皇帝との関係)
13. 西ドイツ外交の転換=東方外交(緊張緩和・条約・承認問題)

14. 1850年代インドの英支配の変化(反乱後の直接統治化・制度改革)
 15. アメリカ南北対立(産業・貿易・関税・奴隷制の「利害」)
 16. 明の海禁緩和の背景(周辺貿易・倭寇・朝貢との接続)
 17. 国連の「北京／台北」への対応変化(代表権・国際承認)
 18. 対ソ干渉戦争期のソ連経済政策(戦時共産主義→NEPへ)
 19. ソヴィエト政権の諸外国との関係変化(講和・孤立・承認・安全保障へ)
 20. 1924年移民法の影響(排日・国際関係)
-

【2】狙われやすい戦後史 5(法学部は戦後比率が高い)

1. 国連の実務 …… PKO／安保理／拒否権／制裁・介入(“紛争処理”)
 2. 冷戦の転換点 …… ベルリン・キューバ・デタント・新冷戦(年代整序必須)
 3. 東アジア冷戦: 中華人民共和国・国連代表権・米中接近・中ソ対立
 4. 中東と石油 …… OPEC・戦争・和平・
 5. 核軍縮・NPT体制 …… 核拡散防止条約・SALT/START系・核実験禁止系(条約名×年代)
-

【3】狙われやすい文化史 5(法学部は文化史も厚い)

1. 啓蒙思想と言論(社会契約・権力分立・自然法)
 2. 19 世紀の思想・文学・美術(ロマン主義／写実主義／自然主義)
 3. ルネサンスと人文主義(古典復興・パトロン・都市国家)
 4. 宗教改革と対抗宗教改革(ルター／カルヴァン／英国国教会を制度で比較、イエズス会とバロック建築)
 5. 東アジアの思想と制度(科挙・朱子学・士大夫・書院など:政治制度とセット)
-

【4】年代・グラフ・地図で「注意すべき箇所」具体コメント

- 1914→1919→1929→1933→1939→1945(戦間期～総力戦の“順番”)
- 1947→1949→1950→1955→1962→1968→1973→1979→1989/91(冷戦の節目+石油+終結)
- 原油価格推移(1970～2000)=中東戦争・OPEC と連動
- 主要国の工業生産(世界恐慌前後／19 世紀後半の構成比)
- 貿易収支+為替+軍事支出(米国の 70～90 年代など)
- 冷戦の東西陣営地図(NATO/ワルシャワ・非同盟)
- 西アジア分割・委任統治系の地図(法・経で共通)

【5】歴史総合 本命5単元

① サンフランシスコ体制と戦後日本の領土処理(最有力)

サンフランシスコ平和条約、沖縄・小笠原返還、日韓基本条約、日ソ共同宣言と北方領土問題

② 日米安保体制と東アジア冷戦

日米安全保障条約(旧→新)、朝鮮戦争、台湾海峡

③ 国連加盟と国際社会復帰

国連加盟(1956)、国際平和協力法(PKO 協力法)成立(1992)、カンボジア PKO(UNTAC:1992～93)

④ 日本の高度経済成長と国際経済秩序

GATT、IMF、プラザ合意と円高

⑤ 台湾・朝鮮半島をめぐる日本の外交史

日清戦争、台湾統治、朝鮮半島政策、戦後の日韓関係

【6】狙われる論述(欧米5問、東洋5問)

①フランス革命～ウィーン体制(字数:325)

フランス革命は三部会招集から国民議会が成立し、バスティーユ襲撃・人権宣言で旧体制(アンシャン=レジーム)を否定した。立憲君主制(1791年憲法)とルイ16世の動揺、ジロンド派とジャコバン派の対立を経て、公安委員会が恐怖政治を主導し王政は廃止された。総裁政府の混乱を突いてナポレオンが政権を握り、ナポレオン法典・大陸封鎖で欧州を再編する。敗北後、ウィーン会議でメッテルニヒが正統主義・勢力均衡を掲げ、神聖同盟・四国同盟で体制を維持したが、自由主義・民族主義が各地で体制を揺さぶった。ナポレオン戦争はライン同盟などを通じて諸国の国民意識を刺激し、百日天下とワーテルローの敗北で終結する。体制は七月革命や1848年革命へ連鎖し、ウィーン体制の限界を示した。

②ドイツ統一とビスマルク外交(字数:321)

プロイセンは関税同盟で経済圏を広げ、ビスマルクが鉄血政策を掲げて統一を進めた。デンマーク戦争でシュレースヴィヒ=ホルシュタインを獲得し、普墺戦争でオーストリアを排除して北ドイツ連邦を成立、さらに普仏戦争でナポレオン3世を破り、ヴェルサイユ宮殿でドイツ帝国(皇帝ヴィルヘルム1世)が成立した。統一後はフランス孤立化のため三帝同盟・再保障条約・三国同盟を組み合わせ、勢力均衡と現状維持を狙ったが、ヴィルヘルム2世の世界政策で同盟網が崩れ、英仏露協商へと対立が固定化した。国内では帝国憲法の下で連邦制を整え、文化闘争や社会主義者鎮圧法で統合を図った。対外では植民地獲得に慎重で、ベルリン会議は主導しても欧州の危機管理を優先した。

③帝国主義と植民地支配(字数:316)

19世紀末、第二次産業革命で鉄鋼・化学工業が発展すると、列強は市場と資源を求めて帝国主義を推進した。アフリカではベルリン会議で「実効支配」が確認され、保護国・植民地・勢力圏が拡大する。英はインド帝国とスエズ運河を軸に東アフリカへ、仏は西アフリカから北アフリカへ進出し、独・伊も参入した。植民地統治は間接統治や直接統治で行政・鉄道を整備する一方、モノカルチャー経済を強い、反発は民族運動へ発展した。列強対立はモ

ロッコ事件やボーア戦争などで顕在化し、同盟形成と軍拡が第一次世界大戦の遠因となった。アジアでも清は不平等条約の下で租界・治外法権が拡大し、露はシベリア鉄道から三 C 政策を掲げ満州へ、日英同盟後の日露戦争もこの競合の延長だった。

④戦間期の国際秩序(字数:319)

第一次世界大戦後、ヴェルサイユ条約はドイツに賠償と軍備制限を課し、国際連盟は集団安全保障を掲げた。海軍軍縮はワシントン会議で進み、ロカールノ条約で欧州協調も模索されたが、賠償問題はドーズ案・ヤング案で先送りされた。1929年の世界恐慌で金本位制が揺らぎ、各国はブロック経済と保護関税へ傾く。米はニューディールで対応した一方、独ではナチスが政権を握り再軍備とラインラント進駐を強行し、伊のエチオピア侵略、日の満州事変で国際連盟は無力化した。英仏の宥和政策はミュンヘン会談でも止められず、ポーランド侵攻で第二次世界大戦が始まった。日本の連盟脱退、独伊の枢軸化、反コミンテルン協定、さらに独ソ不可侵条約が戦争回避の枠を壊し、国際秩序は崩壊した。

⑤冷戦構造の形成(字数:321)

第二次世界大戦後、米はトルーマン=ドクトリンで封じ込めを宣言し、マーシャル=プランで西欧復興を支援した。これに対しソ連はコミンフォルムを設け東欧を統制し、COMECON で経済圏を形成する。1948年のベルリン封鎖は空輸で対抗され、ドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国の分断が固定化した。軍事面では NATO が成立し、ソ連はワルシャワ条約機構で対抗した。アジアでも中華人民共和国成立、朝鮮戦争、日米安保を通じて陣営化が進み、核軍拡と相互確証破壊が緊張を高めた。こうして国際秩序は二極構造として制度化され、地域紛争が代理戦争化していった。のちにベルリンの壁やキューバ危機が頂点となり、部分的核実験禁止条約やデタントへ向かう前提もこの時期に形作られた。

⑥清末改革～辛亥革命(字数:318)

清はアヘン戦争以後の条約体制に苦しみ、甲午戦争の敗北で改革要求が高まった。戊戌変法は挫折し、義和団事件と辛丑条約で主権制限が拡大する。そこで光緒新政が進められ、科挙廃止・新式学校・新軍創設・立憲準備など近代化が図られたが、地方の軍事力が強まり統合は進まなかった。革命

派は孫文が中国同盟会を結成し、三民主義(民族・民権・民生)を掲げる。1911年の武昌起義を契機に各省が独立し、袁世凱の調停で宣統帝が退位して中華民国が成立した。しかし軍閥割拠と列強干渉が続き、統一国家建設は困難となった。鉄道国有化に反対する保路運動も蜂起を後押しし、南京に臨時政府が置かれた点も重要である。臨時約法で共和制を掲げたが、袁世凱の専制化が新たな対立を生んだ。

⑦インド大反乱と英領インド(字数:314)

1857年のインド大反乱(シパーヒー反乱)は、東インド会社の支配拡大、ドクトリン=オブ=ラプスによる藩王国併合、土地収奪、さらにエンフィールド銃弾をめぐる宗教不安が重なって発生した。鎮圧後、1858年インド統治法で会社統治は廃止され、インド帝国として女王(のち皇帝)の下で総督が統治する「英領インド(ラージ)」が確立する。行政官僚制と鉄道・電信が整備される一方、藩王国の保護と分割統治で民族統合は抑えられた。しかし英語教育と都市の形成は知識人層を育て、1885年のインド国民会議創設へつながり、民族運動が制度的に展開した。さらにベンガル分割(1905)や全インド=ムスリム連盟(1906)は分離を深め、独立運動の性格を規定した。

⑧印パ分離独立～バングラデシュ(字数:321)

第二次世界大戦後、イギリスはインド統治の継続が困難となり、1947年にインド独立が実現した。しかし国民会議派とイスラーム連盟の対立が妥協できず、マウントバッテン案によりインドとパキスタンへの分離独立が決定され、ラドクリフ線で国境が画定された。パンジャーブとベンガルでは宗教共同体が混在していたため、難民の大量移動と暴力が発生し、国家形成に深刻な傷を残した。さらにカシミール帰属をめぐり第一次印パ戦争が起こり、以後も対立の核心となる。東西に分断されたパキスタンは言語・経済格差を抱え、1971年に東パキスタンがバングラデシュとして独立し、分離独立の問題が再燃した。この過程は宗教と国民国家の矛盾を示し、南アジアの安全保障を長期に不安定化させた。

⑨中国代表権問題と米中接近(字数:316)

1949年に中華人民共和国が成立すると、米など西側は台湾の中華民国を「中国代表」として承認し、国連や安保理の議席も台北が保持した。だが中

ソ対立の進行とベトナム戦争の泥沼化で米は対中政策を転換し、1971年の国連総会でアルバニア決議が採択されて中国代表権は北京へ移行、台北は国連を脱退した。翌1972年、ニクソン訪中と上海コミュニケにより米中接近が進み、日本も日中国交正常化を行う。中国の国際復帰は冷戦の二極構造を揺さぶり、承認・主権・代表権という国際法的論点と、勢力均衡という現実政治が交差する典型例となった。米は「一つの中国」原則を確認しつつ台湾関係法で台湾との関係を維持し、1979年には米中国交樹立で東アジア秩序が再編された。

⑩ベトナム戦争後のインドシナ再編(字数:321)

1973年のパリ協定後も戦闘は続き、1975年にサイゴン陥落でベトナム戦争は終結、ベトナム社会主義共和国が成立した。カンボジアではクメール＝ルージュ(ポル＝ポト)が民主カンプチアを樹立し、強制移住と虐殺で社会を破壊した。国境紛争と難民流出が深刻化すると、1978年にベトナムが侵攻して政権を倒し、親ベトナム政権を樹立する。これに反発した中国は1979年に中越戦争を起こし、ソ連はベトナムを支援するなど、インドシナは大国対立の舞台となった。ASEAN諸国は地域安定を優先し、外交圧力と和平枠組みで介入したが、内戦終結まで長期化した。ボートピープル問題は国際世論を動かし、最終的に国連PKO(UNTAC)など国際関与が和平に結びつく前提となった。

